

【検査予約票】

患者様に、検査予約票(当用紙)をお渡しいただきますようお願いいたします。

患者様氏名	様	ID	
検査内容	PET-CT		
検査日時	年 月 日()		
備考	検査の所要時間は、検査内容によって異なりますが、2～3時間程度です。 急病の患者等により、検査開始時刻が前後することがありますので、 あらかじめご了承ください。 検査結果は後日、紹介いただいた先生より説明いたします。		

お持ちいただく物

- ①診療情報提供書(紹介状) ②検査予約票(当用紙) ③健康保険証等
- ④画像データ ⑤診察券(当院受診したことがある方のみ)

検査当日は検査開始15分前までに直接2階放射線科受付(2D-1番)にこの予約票と紹介状をご提示ください。(1階受付窓口、1階再来受付機での手続きは不要です)

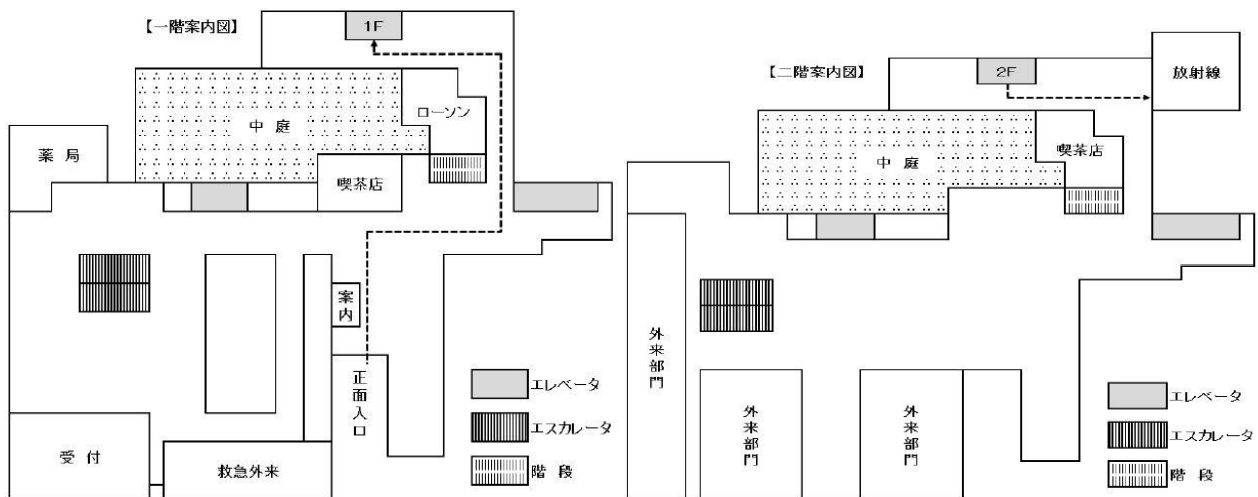
ただし、発熱などの症状がある場合は、直接診療科へは行かず、1番窓口へお越しください。

検査終了後、放射線科職員がお渡しする伝票と保険証を添えて、一階②番受付カウンターにご提示ください。

なお、検査当日、ご都合によりご来院できない場合は地域医療連携室(075-641-9161代表)にご連絡ください。

<注意>

※紹介状をお持ちでない場合は当日の検査はできませんのであらかじめご了承ください。



FDG PET-CTに関する説明

検査を受けるにあたって、以下の点をご理解ください。

1. 検査の安全性について

この検査では、微量の放射性物質が「薬」として、静脈注射により体内に投与されます。この「薬：FDG」は、ブドウ糖などの身体の構成成分に放射性を持たせて製造されたもので安全であることが確認されています。この薬を注射した後に撮影を行い、体内の糖代謝の状態(PET画像)をみることでガンなどの疾患を診断する検査です。

2. 診断精度について

ガンの種類や大きさ、部位および性質などの諸条件により病変が検出されにくいことがあります。また、炎症部位や一部の良性疾患、さらには臓器の生理的機能(筋肉や腸管の運動)により、正常部位でも「薬：FDG」の集積が認められることがあります。このような限界のため、5mm以下の**小さなガンが見つからないことがあります。**

また、肝細胞癌や胃がんなど「薬：FDG」が、集積しにくいものがあり診断できないこともあります。従ってPET-CT検査だけでは、診断が確定するものではありません。結果が異常と診断された場合には、更に追加検査が必要となることもあります。

使用する「薬：FDG」は、薬として使用できる時間が短いため、**予約時間から30分遅れた場合にはキャンセルとなります。また、当日の血糖測定において、血糖値が200mg/dl以上の場合は診断能力が低下するため、検査を中止とさせていただきます。**また、撮影検査機器などの保守点検には万全を期しておりますが、機器にトラブルが生じた際には撮像ができなくなる場合があります。その際は後日、もしくは時間を変更して検査させていただきます。

4. その他

当施設では、安全で円滑な検査を遂行するため、テレビカメラを通して検査の進行状況を把握し皆様方をご案内しております。この際、画像を録画したりプライバシーを侵害したりすることはございませんのでご安心ください。

FDG-PET/CT検査とは

FDG-PET/CT検査で使用するFDGとは、グルコース(ブドウ糖)に目印となる「ポジトロン核種(=陽電子放出核種)」を合成した薬剤です。ポジトロン核種はまわりの電子と反応して放射線(γ線=ガンマ線)に変わる特徴があり、このγ線の出る場所と量が、ブドウ糖を消費する細胞(エネルギーの代謝が多い細胞)の目印となります。このγ線をPETカメラで収集し画像化する検査がFDG-PET検査になります。

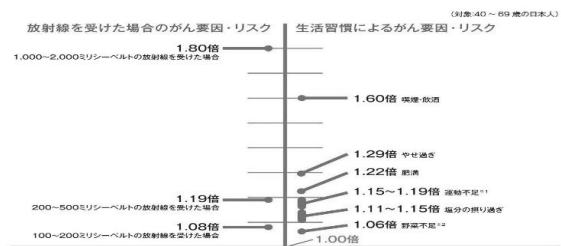
当院の成人に対する¹⁸F-FDG PET検査の線量は3~7.5mSvになります。基本的に個人の体重から投与量を決定しています(体重×2~5MBq)。体重が軽い方は少なく、体重が重い方は画質が悪くならない最低レベルの投与量を使用しています。また、日本核医学会放射線防護委員会で検討された診断参考レベル(DRL)やがんFDG-PET/CT撮像法ガイドラインを参考にして画質と投与量を選定しています。

FDG-PET/CT検査では装置付属のCTを使用して、低線量(通常診療で使用されるCT検査の2分の1の線量:約5mSv)のCTを撮影させていただき、位置情報をより正確に診断できる融合画像を作成しています。

<<放射線の影響>>

人体への放射線の影響は『確定的影響』と『確率的影響』があります。確定的影響はしきい線量が存在します。白内障(約500mSv)や皮膚熱傷(約5000mSv)など、定められたしきい線量を超えると症状が現れます。

確率的影響しきい線量がなく、受ける線量が多くなるほど、がんや白血病に罹るリスクが高くなります。100~200mSvの放射線を受けた場合で1.08倍高くなります。対して生活習慣によるがんのリスクは、運動不足で1.15倍、喫煙・飲酒で1.60倍高くなります。がんや白血病に罹るリスクは、一定線量以下では他の影響が大きいとされています。



(注) 放射線は、がん・長寿の原因による確率的なリスクを分析したデータ(撮影がんのみ)であり、長期的にわたるリスクの影響を軽減したものではありません。

※1 運動不足・喫煙・飲酒の量が非常に少ない

※2 運動不足・喫煙・飲酒の量が非常に多い

日本原子力文化財団H.P.より抜粋

FDG-PET検査の流れ



※ 検査時間は、2~3時間ほどを予定しています。
※ ご不明な点があれば問診時、担当者にお尋ね下さい。